

医療法人陽心会（高良健理事長）は2025年7月から新たに、脳神経内科と整形外科に外来リハビリテーションを加えた、三位一体となる診療体制を始めます。陽心会が目指す「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる医療体制」の構築を実現できる大きな改革です。新たな診療体制の目的と意義を、脳神経内科の小嶺幸弘医師と整形外科の鈴木浩之医師に語っていただきました。

（司会・島洋子／琉球新報統合広告事業局長）

に、高齢になればなるほど筋トレは非常に重要になります。歳を取ると誰でも膝や腰が曲がると思われていますが、トレーニングによって防ぐことができます。

私自身も感じるのですが、筋肉は使わないと急速に衰えます。毎朝腹筋運動をしていますが、背筋強化を怠ると姿勢が悪くなります。前屈みになると転倒リスクが増えます。高齢になるとつまずきやすいといった平衡障害も多く起こりますが、何より転ぶとすぐ股関節骨折などを起こし、寝たきりに陥り、がたがたと体力が落ちて合併症を引き起こしてしまいます。

特に女性には背筋を鍛える努力をしなければなりません。若い時から背筋運動をして筋力を強化すれば、パーキンソン病によくある背曲がりも防げるかもしれません。パーキンソン病に見られる症状もリハビリによる緩和は可能なのではないか。

小嶺 沖縄ではあまり注目されていませんが、パーキンソン病による歩行障害や嚥下障害も、リハビリで一定の改善が見られることが研究によって立証されています。ただ制度によるリハビリ回数の制限があり、できないだけです。急性期後の患者さんだけでなく、

生活の質を上げる、 病気と共存できる 地域医療を。

メディカルプラザ大道中央病院
脳神経内科

小嶺 幸弘（こみね ゆきひろ）・左

メディカルプラザ大道中央病院
整形外科

鈴木 浩之（すずき ひろゆき）・右



「メディカルプラザ大道中央病院に、7月1日から脳神経内科と整形外科に外来リハビリテーションを加えた診療体制ができるのですが、その目的を教えてください。」

小嶺 地域には腰痛や膝痛などの整形疾患やパーキンソン病などの神経疾患に悩む高齢者が多くいます。しかし沖縄はもともと脳神経内科が少ない現状があります。

厚労省の統計によると脳卒中（脳血管疾患）は日本人の死因の第4位ですが、寝たきりとなる原因としては第1位の病気です。また脳卒中は認知症、衰弱、骨折・転倒の大きな原因でもあります。

パーキンソン病も近年高齢化とともに増えており、神経変性疾患の中ではアルツハイマー病に次いで患者数の多い病気です。震えや動作緩慢、姿勢保持障害（転びやすいこと）などを主な運動症状とする病気で、50歳以上で起こることが多く、日本国内の患者数は15（20万人）と見られ、高齢化社会の進行とともにますますの増加が予想されます。

しかし脳疾患の治療方法は日進月歩です。例えば脳卒中が起きてもすぐに専門的な治療を受けることで症状を軽く済ませたり、リハビリで後遺症を改善したりするこ

とができ、早い社会復帰が可能になります。パーキンソン病も現在は症状に合わせた治療によって生活を長期間サポートできるようになっています。

高良理事長の着眼点は「治療とリハビリを分断することなく、脳神経内科と整形外科の治療に、理学療法や作業療法などのリハビリテーションを組み合わせ、困っている方々に専門的な治療を提供する」ということです。

「整形外科医の立場からは、この三位一体となる新たな診療体制をどう考えますか。」

鈴木 整形外科外来を立ち上げ、整形とリハビリを合体させることは非常に有効です。整形外科を訪れる高齢の患者さんで多いのは、腰や膝などの変性疾患です。これらについては、基本的に痛みを取ってリハビリをすることで、動ける体をつくることが重要です。痛いのは辛いですし、QOL（Quality of Life）（生活の質）を大きく下げます。ペインクリニックという場所もありますが、疾患を治療し、運動療法などのリハビリとセットにして継続した治療につなげることで、自分で動ける体、自分で生活できる体を作ることができます。

そのために、高齢者は筋トレを

貫して見据えた医療体制と、QOL向上を支えるリハビリの提供、外来・入院・在宅・通所といった複数のステージを網羅した「切れ目のないリハビリテーション」の提供によって、一人ひとりが自分らしく地域で生きられる社会を構築していくことが、陽心会の目指す未来です。



メディカルプラザ大道中央病院



医療法人 陽心会グループ

医療法人 陽心会 社会福祉法人 陽風会 有限会社 ヘルスサポート

理事長 高良 健

グループホーム 大道が丘

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0036

小規模多機能型ホーム 大道

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0018

地域交流センター 大道

那覇市宇大94-3 2F TEL.098-885-0018

那覇市地域包括支援センター 若狭

那覇市若狭2-1-10 TEL.098-863-1165

ケアハウス 常夏の島

那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036

特別養護老人ホーム 前島

那覇市前島2-18-17 TEL.098-894-8039

那覇市地域包括支援センター

那覇市首里末吉町2-14 TEL.098-886-3510

那覇市瀬川老人福祉センター

那覇市瀬川2-3-11 TEL.098-853-1139

グループホーム 大道が丘

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0036

小規模多機能型ホーム 大道

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0018

地域交流センター 大道

那覇市宇大94-3 2F TEL.098-885-0018

那覇市地域包括支援センター 若狭

那覇市若狭2-1-10 TEL.098-863-1165

ケアハウス 常夏の島

那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036

特別養護老人ホーム 前島

那覇市前島2-18-17 TEL.098-894-8039

那覇市地域包括支援センター

那覇市首里末吉町2-14 TEL.098-886-3510

那覇市瀬川老人福祉センター

那覇市瀬川2-3-11 TEL.098-853-1139

グループホーム 大道が丘

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0036

小規模多機能型ホーム 大道

那覇市宇大94-3 TEL.098-885-0018

地域交流センター 大道

那覇市宇大94-3 2F TEL.098-885-0018

那覇市地域包括支援センター 若狭

那覇市若狭2-1-10 TEL.098-863-1165

ケアハウス 常夏の島

那覇市牧志3-8-10 TEL.098-951-0036

特別養護老人ホーム 前島

那覇市前島2-18-17 TEL.098-894-8039

那覇市地域包括支援センター

那覇市首里末吉町2-14 TEL.098-886-3510

那覇市瀬川老人福祉センター

那覇市瀬川2-3-11 TEL.098-853-1139

してほしいですね。しっかりと歩ける場所を見つけて歩行トレーニングをすることが必要です。例えば栄町市場で買い物しながら歩くことも運動であり、計算によって頭も使える。それがQOLの向上につながる、病があっても楽しく生きることに繋がります。そのためにもリハビリはとても重要です。

「高齢化が進行する中でリハビリの重要性はますます高まりますね。」

鈴木 しかし、病院でリハビリを受けていても退院するとそれが受けられなくなってしまうという課題もあります。「リハビリ難民」といつて、2010年代後半から医療現場やメディアで繰り返し取り上げられています。住民の方々は「リハビリをもっと続けたかった」「通える場所がほしい」といった切実な声がありましたので、私たちはその問題を真摯に受け止め、地域の声に応える形で切れ目なくリハビリが続けられる体制を再構築していきます。

高良理事長は、医療でも介護でも介護保険でも、リハビリを受ける量が制度によって制限される現状を憂い、高齢者が希望する限りリハビリを受けられる制度の実現を陽心会の使命としています。

小嶺 鈴木先生がおっしゃるよう